

竜西だより

9月号

2016年8月29日
竜王西小学校
児童数:297名
学級数:14学級



校長 富長 宗生

学校教育スローガン
学びきらきら 心うきうき 行いどんどん

リオ・オリンピック、夏の高校野球が終わりました

「暑くて熱い」夏が過ぎ、さあ、2学期のスタートです



「りゅうせいピック」の練習が始まります

皆様、熱中症は大丈夫でしたでしょうか。熱中症とまではいかなくとも体に熱がこもった感じで何となくだるくてしんどい方も多いのではないのでしょうか。それに加え、リオ・オリンピック期間中はTV視聴で寝不足の日が続いた方も多かったのではないのでしょうか。私自身もまだまだ興奮が冷め止まない状態です。更には高校野球も、連日素晴らしい熱戦が繰り広げられました。帰宅後の私にとって、今年の夏はまさにスポーツ観戦一辺倒でした。

52年前に小学校1年生だった私は、東京オリンピックの「東洋の魔女」の記憶が今でも残っています。バレーボール部員だった中学生の時は、ミュンヘンでの男子バレーの金メダル獲得が感動的でした。(アニメドキュメント「ミュンヘンへの道」をご存知ですか。)

子どもたちにとって、このリオ・オリンピックの各種競技の感動の熱戦は、さて、どんなふうに残ったのでしょうか。

★ スポーツの持つ素晴らしさ・大事さを改めて考える ★

スポーツは、オリンピック精神やスポーツマンシップを持ち出すまでもなく意義深いものです。それは、スポーツをする当事者だけでなく観戦する者にも、喜びや楽しみそして苦しみを与え、時には“魂の震え”さえもたらしてくれます。どんな競技も、やればやるほどに知れば知るほどにその奥深さに魅了されます。スポーツから私たちは人生の多くのことを学びます。子どもたちにもぜひスポーツの面白さを知り味わってほしい。そう強く願います。やる者も見る者もとりにしてしまおうその魅力の根源とは何なんのでしょうか？

少し違った視点から解き明かした文がありました。野球競技を例に挙げています。

野球というゲームを見たことがない人に野球の試合の見方を説明するのは、継投策や「強打かバントか」について専門的なコメントをすることよりもはるかに深く野球の本質に切り込む必要があります。素人にラディカルな説明をしようとすれば、僕たちはこのボールゲームについて、「フィールドは『フェア(美しい)』か『ファール(醜い)』のいずれかに分割されている」、「ボールは『生きている』か『死んでいる』かいずれかの状態にある」、「ボールが『生きている』間は『ホーム(家)』に戻る権利がある」、「『ストライク』というのは『打て』という命令であり、この命令に3回違背すると『ストライク』する権利を喪失する」といった表現をしなければならなくなります。そして、こういうラディカルな説明を試みると、このボールゲームがある種の神話的な構造を持っていること、ある種のコスモロジーを体現した宗教儀礼に類したものであることが理解されてきます。 内田樹著『内田樹による内田樹』

また、この著者は別の本では、こんなことも述べています。

夏の甲子園高校野球には4千校以上の高校が参加するが、勝利するのは1校だけで、残りはすべて敗者である。このイベントに何らかの教育効果があるとすれば、それは間違いなく「どうやって勝つか」を会得することではない。その教訓を生かせるのは毎年全国で1校しか存在しないからである。あれだけの時間とエネルギーを投じながら、それだけの人々に教訓を授けるだけのことしかできないのであれば、これほど費用対効果の悪い教育事業はない。しかし、現実には、高校野球が有効な教育事業であるということについて社会的合意が成立している。参加者のほとんど全員が敗者であるイベントが教育的でありうるとしたら、それは「適切に負ける」仕方を学ぶことが人間にとって死活的に重要だということを知っているからである。 内田樹著『昭和のエートス』

勝敗や記録の結果だけが問題でなく、その試合のもつ「物語性」や「プロセス」こそ大切なことです。競技者だけでなく見る者をも魅了するスポーツの秘密はここにあるといえます。

今夏は特に、心が本当に浄化されるようなさわやかさを多くのスポーツが与えてくれました。保護者、地域の皆様、引き続き「りゅうせいピック」をぜひお楽しみにしてください。



40年も高校・大学野球の審判をされた清水幹裕さんのお話から

この夏、すてきな話を伺ったので、「野球」続きで紹介させていただきます。

清水幹裕氏はボランティアで審判をされてきた弁護士の方で、当日の講演の主題は「学校事故と学校の危機管理」という野球とは関係ない内容でしたが、講演の終わりに、貴重な審判の経験談を話してくださいました。高校球児では星野仙一から斎藤佑樹までご存知とのことでしたが、その清水氏が「審判冥利に尽きる」と話されたのは左枠の二つでした。

人間、必ず“後塵を拝する”ことがある。必ず“縁の下の力持ち”の立場になることがある。その時にどれだけ一所懸命にやれるか。

学生の試合の審判をしていて、最後には「一所懸命ってこういうことなんだな」と教えてもらっている心境で行っていた。本当に「審判冥利に尽きる」経験をさせてもらった。

教師もそうではないですか？教師冥利に尽きるという幸せをいただいているのではないですか？
そんな心温まる貴重なお話を伺いました。

その① 大学野球の早稲田 vs 明治の試合で一塁の塁審していた。大差での早稲田の負け試合で、代打が呼ばれた。代打の田代君は絵に描いたようなポテポテの三塁ゴロで一塁ベースに全力疾走で滑り込み判定はセーフであった。その時、彼はベース上で泣いていたので試合後に気になって聞いてみた。彼は4年生で初めてユニフォームをもらった選手であるということを知った。(大学の場合は25人がユニフォームを着られるが100人ぐらい部員がいるとのこと) 皆さんは自分で自分をほめて泣くということがありますか、素晴らしいことではないですか。

その② 甲子園での広商の試合のこと。広商のグランドボーイの三原君と永井君の仕事ぶりが素晴らしかった(試合に出られない選手がグランドボーイを務める)。ファールボールを取りに全力で走り、審判(私)に全力でボールを渡しに来る、その姿に甲子園の観客から拍手が起こった。こんなことははじめて。私も感動し手紙を高校に送ったとのこと。

8. 9月行事



- 29日(月) 始業式
- 30日(火) 給食開始 4校時授業
身体測定(1. 2. 3年)
- 31日(水) 4校時授業
身体測定(4. 5. 6年)
- 1日(木) 移動図書館
5年日野川観察会
- 5日(月) 委員会活動
- 6日(火) 暗唱ラリー
- 7日(水) フッ素洗口開始
- 8日(木) 運動会全体練習①
- 9日(金) 縦割り競技練習①
- 13日(火) 運動会全体練習②
- 14日(水) 縦割り競技練習②
- 15日(木) わくわく交流
- 16日(金) 運動会全体練習③
運動会前日準備
- 17日(土) りゅうせいピック(運動会)
[雨天順延]
- 18日(日) ファミリー読書(～19日)
- 19日(月) <敬老の日>
- 20日(火) 大掃除
- 22日(木) <秋分の日>
- 23日(金) <運動会振替休業日>
- 26日(月) クラブ
チャレンジウィーク(～30日)
- 27日(火) 暗唱ラリー 5年稲刈り体験
- 28日(水) なかまタイム
2年ひびきあい活動
- 29日(木) 4年やまのこ宿泊体験(～30日)



りゅうせいピックに全力！

りゅうせいピック(運動会)の練習期間と重なって、今度は9月7日から18日までパラリンピックが開催されます。178カ国から4,350人が集う祭典です。

当然これからの感動は、TV観戦のパラリンピックだけではありません。

りゅうせいピックの練習や準備から当日17日にかけて、竜西小の子どもたちはきっと私達に「一所懸命ってこういうことなんだな」と教えてくれることと信じています。「教師冥利に尽きる」、「保護者冥利に尽きる」、子どもと関わる幸せがここにあると思います。

昨今、問題となっている組体操については実施することに致しました。しかし、過度な組体操は行いません。十分な検討を行い安全への配慮のもとに、修正を行い従来どおり5,6年生で行います。ご理解をお願いします。

組体操に限りませんが、子どもたち自らがこの取組を通して充実感・達成感が味わえるように教職員一同努力いたします。ご協力をお願いいたします。

※毎週火・金曜日はPTAによる校区内パトロール